令和７年度 第２回 日野町総合教育会議 議事録

1. **日　時** 令和８年２月27日（金）16：00～16：59
2. **場　所** 日野町防災センター研修室
3. **出席者**
   - **議長**: 堀江町長
   - **委員**:
     - 安田教育長
     - 教育委員: 吉澤 松美氏、村井 優子氏、川原 正志氏、清水 裕子氏
   - **説明者**: 西村学校教育課課長補佐
   - **事務局・その他出席者**:
     - 正木 教育次長
     - 赤尾 不登校対応担当課長
     - 音羽 学校教育課主席参事
     - 山添 学校教育課課長補佐
     - 加納 生涯学習課長
     - 岡井 歴史文化財担当課長
     - 平松 図書館長
     - 森 子ども支援課長
     - 大西 企画振興課長 （司会）
     - 歯黒 企画振興課参事（事務局）

4. **議事**

(1) 開会

大西企画振興課長の進行により開会。

(2) 協議事項「学校 ICT について」

西村学校教育課課長補佐より、日野町の小中学校における ICT 活用の目的、現状、および今後の課題について、視察に基づいた具体的な事例とともに説明。

ア. ICT 導入の目的と背景

- **学習基盤の構築**: 情報活用能力を全教科のベースとなる資質・能力として育成する 。
- **学びの質の向上**: 「主体的・対話的で深い学び」を実現するため、子ども一人ひとりの学びのタイプ（視覚・聴覚等）に寄り添った個別最適な学びのツールとして活用する 。

- **教育の高度化**: 教師の経験や直感だけでなく、客観的なデータに基づいた「科学的な指導」へと授業を高度化させる 。

イ. 日野町内学校の活用現状と事例

- **小学校の事例**:
  - **大型モニターの活用**: 子どもの意見を即座に共有し、比較検討する対話的な学習を展開 。
  - **個別学習**: Web での情報収集や、プログラミング、デジタルと紙の使い分けを児童自身が選択する実践 。
  - **体育科**: タブレットで自身のフォームを撮影し、手本動画と比較して課題を見つける自省的な学び 。
  - **掲示の工夫**: 低学年でも入力しやすいよう、キーボード対応表を掲示する等の配慮（必佐小） 。
- **データ利活用**: 南比都佐小学校において CBT（コンピュータによるテスト）調査の結果を分析し、児童自身へフィードバックして主体的な学びに繋げている取り組みが県内でも高く評価された 。
- **中学校の課題**: 端末の故障やネットワークの不安定さにより、小学校に比べて活用頻度が極めて低い現状がある 。

ウ. 質疑応答・意見交換

- **吉澤委員**：**（アナログとデジタルのバランス）**学校での教科内容が変化している。「鉛筆の持ち方」や「紙に書く文化」が無くなってしまうことはないと考える。高齢の先生方は苦労なさっている一方で、子どもたちは操作に長けている。ICT は避けては通れないものとなっている。
- **西村先生**：鉛筆の持ち方が定着しない子は一定ある。全てが ICT ではない。ICT はあくまでツールとして、場面に応じて適切に選択させる指導が必要である。ベテランの先生は子どもの意見を非常に上手く吸い上げて授業に活かしている。そこに ICT が加われば、より良くなる。ケースバイケースで対応したい。
- **村井委員**：**（書くことは大事）**放課後学童に関わっているが、とにかく読めない子どもが多い。そして、書くことをしない。算数のひっ算でも書かない。タブレットで書いた字は大人には読めないが子ども同士はなぜか読める。キーボードで打った字と手書きの字とは子どもの思いの伝わり方が違うのではと思う。また、筆圧が極端に低いのが気になる。鉛筆を正しくもってある程度の筆圧で書くことは大事と思う。

- **西村先生**：タブレットが入って学力が下がったという意見もある。私は、タブレットを上手く使うと子どもも学力は上がると思っている。紙に字を書くことは大事と考える。紙に書いた字を写真をとって、周りと共有するというやり方もある。
- **川原委員**：（ICT の C）体育館に Wi-fi の設備があるのは驚いた。ICT の C の部分、コミュニケーションと活用の仕方について、どれだけ使えているのか。例えば、クラスでのコミュニケーションをチャットでしたり、先生とだれにも聞かれたくないことを１対１の会話ができたり、登校できない子が家で先生と話せたり、授業を受けられたり「C」の部分をどのように考えているのか。物足りなく感じている。
- **西村先生**: タブレットで心の健康観察をしたり、子どもの悩みを客観的に受け止めることはしやすくなった。いじめ等の統計データやアンケートも簡単に取得できるようになった。また、発表が苦手な子どもがデジタルを通じて意見を出せるようになったり、一人ひとりの意見や考え方を授業に生かしやすくなったという利点はある。
- **清水委員**：（**情報リテラシー**）ICT 大賛成である。小学生の子どももタブレットで課題提出ができるのはとても良いと言っている。感想文や作文の書直しも容易にできる。書直しにかける労力が減り、よりブラッシュアップした作文がかけたと喜んでいた。ICT かアナログか自分で選べる環境があることが大事。中学生以上になって紙媒体で何かを提出することはほぼなくなる。小学生の間に ICT を教えてもらえるのはとても良いことと思う。一方、情報の格差が気になる。親の情報リテラシーが低いと子どもも低くなる傾向にあると思う。情報は持っている方がよい。情報入手の仕方を合わせて教えてほしい。またソースの信憑性はどうなのか見極める力や web の情報をどう活用するのかも学んでほしい。
- **西村先生**：次期学習指導要領に向けて、情報活用能力がより大切にしていくこととなっている。具体的には今の技術科は（仮称）情報技術科に変わっていく。そもそも「情報活用能力」とは何かというと、①情報機器を適切に活用する力、②情報機器の科学的な理解、③情報化社会に適切に入っていくモラル的な指導を強化していくこととされている。学習の強化が図られていく。

  作文に関しても、やっていく中でより良い方を選択していくことが大切と考える。
- **堀江町長**：時代が ICT は当たり前になってきている。正しい使い方を幼いころに学んでおく方が良いと思う。ICT はあくまでツールであり、実学的な利便性だけでなく、論理的思考や抽象的な議論を深めるための手段としてバランスよく活用してほしい。現場の教職員の創意工夫を支援していく 。

- **まとめ　安田教育長**：今回このテーマをもったのは、令和 8 年度タブレットの更新や電子黒板が入る関係で、改めてその大事さを見直したいというところである。学習系

でも校務系でもICTが活用されることになってきている。一方でICTが全てではないというご意見もあった。その通りだと思う。学校教育では徹底的な読書が必要である。読めないとあらゆることに対応ができない。読めないと書けない。一番大事である。情報格差への対応も必須である。使い方を身に着けていくことが必要である。新しいツールのツールを皆で共有し、全体で変わっていけるよう取り組みたい。

5. 今後の課題・確認事項

- **デジタル学習基盤の整備**: 中学校の盤石なネットワーク環境の整備が必要
- **教職員の研修充実**: 生成AIの活用を含め、教員のスキルやニーズに応じた効果的な研修体制の構築 。活用事例の共有。
- **校務DXの推進**: 学習系と校務系のクラウド連携による「エビデンスベースの政策形成（EBPM）」の実現と、教員の業務負担軽減（電子決済の導入等）